

CFRL ニュース No. 82 (2013. 11. 20)

Cold Fusion Research Laboratory (Japan) Dr. Hideo Kozima, Director

E-mail address; [cf-lab.kozima@nifty.com](mailto:cf-lab.kozima@nifty.com)

Websites; <http://www.geocities.jp/hjrfq930/>

<http://web.pdx.edu/~pdx00210/>

News のバックナンバーその他は上記ウェブサイトでご覧になれます

常温核融合現象 CFP(The Cold Fusion Phenomenon) は、「開いた (外部から粒子とエネルギーを供給され、背景放射線に曝された)、非平衡状態にある、高密度の水素同位体(H and/or D)を含む固体中で起こる、核反応とそれに付随した事象」を現す言葉で、固体核物理学(Solid-State Nuclear Physics)あるいは凝集体核科学(Condensed Matter Nuclear Science)に属すると考えられています。

CFRL ニュース No.82 をお送りします。この号では、次の記事を掲載しました。

1. JCF14 が 12 月 7, 8 日に東京で開催されます。
2. *Infinite Energy*, Issue 112 (November/December 2013) が発行され、“LENR Modeling: Nine Theoretical Papers “ が掲載されています。
3. 矢野経済研究所の月刊誌 *Yano E plus* に、「常温核融合技術動向」が掲載されています。

## 1. JCF14 が 12 月 7, 8 日に、東京で開催されます。

日時：平成 25 年 12 月 7 日(土)～12 月 8 日(日)

会場：東京工業大学 南 8 号館－5 0 1 室 (5 階) 大輪講室

詳しい情報は、<http://jcf14.org/jcf14.pdf> をご覧ください

JCF14 会場責任者：

東京工業大学 理工学研究科

沼田博雄

<http://jcf14.org/NEW.HTML>

## 2. *Infinite Energy*, Issue 112 (November/December 2013) が発行さ

れ、“LENR Modeling: Nine Theoretical Papers” が掲載されています。

<http://www.infinite-energy.com/iemagazine/issue112/index.html>

## ARTICLES

Experimental Implications of Neutron Isotope Theory	John C. Fisher	7
On the Phonon Model in Cold Fusion/LENR	Peter L. Hagelstein	12
A Theory of LENR Transmutations	Valerio Dallacasa and Norman D. Cook	18
A Theory of LENR Based on Crack Formation	Edmund Storms	24
Lochon and Extended-Lochon Models for LENR in a Lattice		
	A. Meulenberg and K.P. Sinha	29
Application of Coherent Correlated States of Interacting Particles...		
	V.I. Vysotskii and M.V. Vysotsky	33
Trapped Neutron Catalyzed Fusion Model with an Adjustable Parameter		
	Hideo Kozima	39
Femto-Atom and Femto-Molecule Models of Cold Fusion	A. Meulenberg	41
Some Implications of the Oscillators-in-a-Substance Model	Dean Sinclair	49

H. Kozima, “**Trapped Neutron Catalyzed Model with an Adjustable Parameter**” は、このモデルの最新版を制限文字数内で簡潔に説明しています。思えば、ICCF4 (Hawaii, USA, December 1993)で最初のアイデアを発表し、拙著 *Discovery of the Cold Fusion Phenomenon* (1996)で一応のまとめをしました。その後の実験事実の集積とモデルの進化を含めて、拙著 *The Science of the Cold Fusion Phenomenon* (2006) では、当時の段階での最新版を説明しています。それ以来、必要な基礎づけを量子力学的に考察し、新しい現象を説明するための拡張を加えて、このモデルは進展してきました。JCF14 で最新版を残りになく説明する予定ですが、上記の *Infinite Energy* 論文にはモデルの最新版の概略とその成果が描かれています。Infinite Energy #112 に掲載された論文を、このサイトに掲示します。

*Infinite Energy* No. 112 には、他にも、[DOWNLOAD FREE SELECTION OF ARTICLES](#) があつて、Nagel による ICCF18 の Overview, Miley との Interview などが自由に読めます。

3. 矢野経済研究所の月刊誌 *Yano E plus* に、「常温核融合技術動向」が掲載されています。

*Yano E plus*, 2013. 11 (no. 068) pp. 45 – 61 (2013) に、《環境・エネルギー関連》として

- 常温核融合技術動向

固体中核変換が起きているという証拠は固まりつつある！

メカニズムはまだよく分かっていないが今後の解明が待たれる

という記事が掲載されました。かなり詳しく常温核融合現象の研究の歴史と現状を説明し

ており、一般読者、特にこの雑誌の場合は経済界の読者に、研究の現状を紹介する適切な記事になっています。<http://www.yano.co.jp/eplus/>

特に、何がこの分野の研究を継子扱いさせているのかを客観的に考察し、研究者に必要な条件を考えてくれている態度には、正確さを命とするこういう雑誌には当然のことなのでしょうが、感心させられます。その視点を表している、いくつかの文章を引用しておきます。

「常温核融合とは、いまだ未知の反応であり、現時点では『自然環境放射能に曝された、水素同位体を多量に含んだ固体中で起こる核反応と、それに付随した物理現象』という小島英夫氏の定義がもっとも適当と思われる。」

「再現性の悪さが特に問題であったが、TNCF モデルなどを始めとして、この現象の再現性を科学的に説明する試みがなされている。中性子という原子核の不可欠の構成要素が固体中で示す行動については、今まであまり知られていなかったが、常温核融合ではこの中性子が意外な役割を演じているらしい。」

なお、日本語文献としては、下記の拙著があります。少し古いのですが、一貫した視点で書かれておりますので、ご参考にしていただければと思います。

小島英夫、「常温核融合の発見—固体—核物理学の展開と21世紀のエネルギー」、大竹出版、1997、ISBN 4-87186-038-8.

小島英夫、「『常温核融合』を科学する—現象の実像と機構の解明」、工学社、2005、ISBN 4-7775-1153-7.